

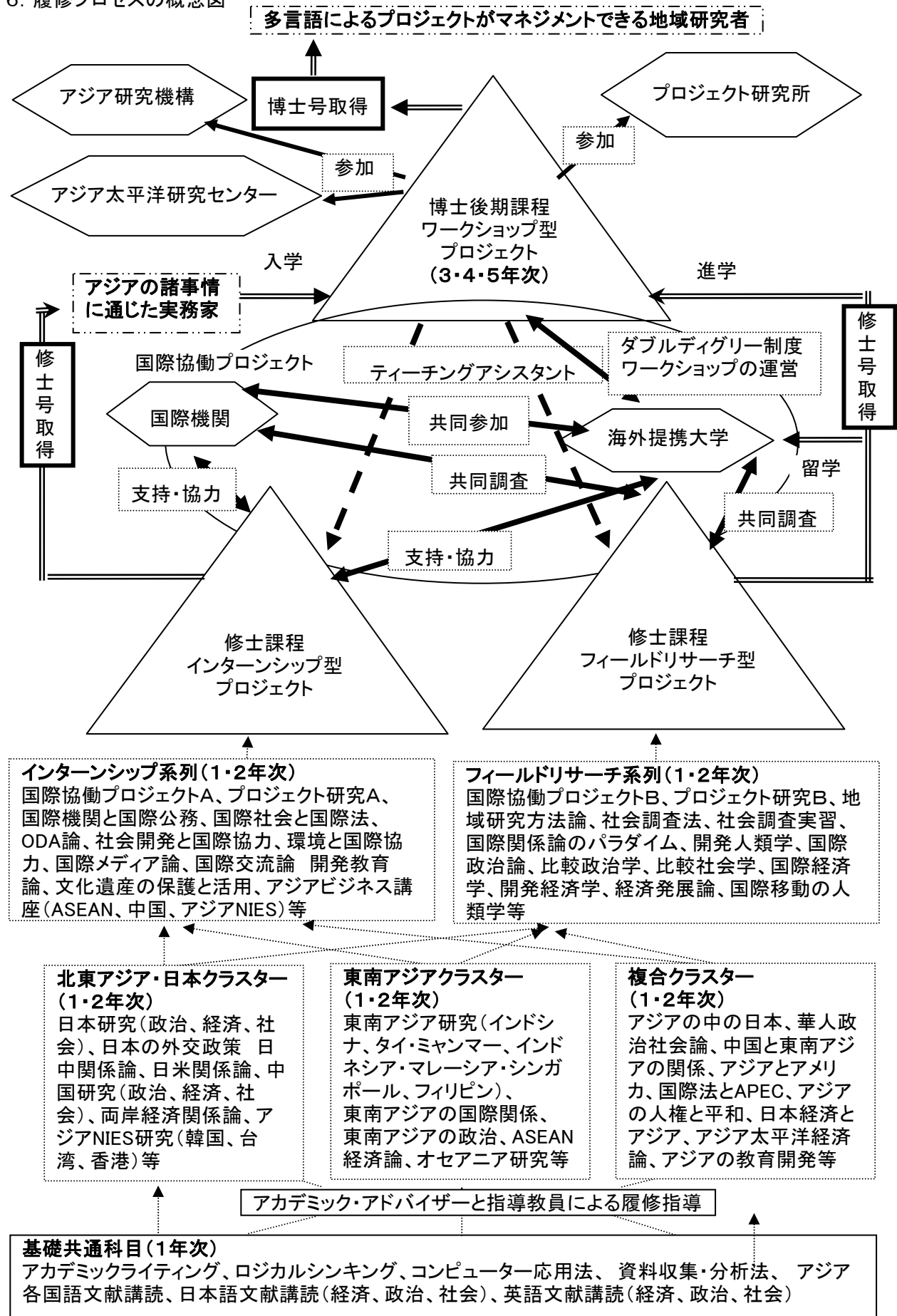
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	早稲田大学	整理番号	a031
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	海外連携型プロジェクトの有機的展開		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 地域研究、政治学、経済学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (北東アジア、東南アジア、地域協力、国際交流論、経済発展)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) アジア太平洋研究科・国際関係学専攻 〔修士課程〕〔博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名 西村 吉正	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>早稲田大学は2005年度の事業計画における重点課題の一つに「<u>アジア太平洋における知の共創の推進</u>」を掲げているが、本研究科とりわけ同研究科国際専攻コースは、研究面での<u>アジア連携のハブ的機能を果たしてきた</u>。19名の専任教員のうち、21世紀COEプログラム「現代アジア学の創生」には10名、文部科学省高度化推進事業「アジアの相互信頼醸成と共有できる『アジア』像創造のための日中韓ASEAN研究者による共同研究」には8名が、それぞれ参加し、多くの大学院生がCOE研究員やリサーチアシスタント(RA)として参加するなど、実績を積み上げてきた。さらに、今年7月に大学共同利用組織として発足したアジア研究機構においても、中心的な役割を果たすことが期待されている。</p> <p>他方、教育面に関しても、本研究科国際関係専攻コースは、<u>日本語と英語の双方による学位取得が可能な日本で唯一の国際関係学関連の大学院</u>として、1988年の設立以来、英語による授業科目の充実、日英両言語での個別指導体制の強化に努めてきた。その結果、十分な英語運用能力を有する日本人学生を育成するとともに、世界45カ国から多数の留学生を受け入れてきた(修士課程の場合、ほぼ半数が留学生)。また、2002年に本学と北京大学国際関係学院との協定に基づいて開始された「博士課程学生共同育成事業」でも中心的な役割を担うなど、日本の大学院教育のアジア化・国際化を牽引してきた。</p> <p>以上のような実績と伝統の上に、本プログラムの実施を契機に、カリキュラム構成と学生指導体制とを再編・強化し、<u>早稲田大学および本研究科が築いてきた国外の諸大学や国際機関との緊密なネットワークを活用して、より有機的、多角的な教育・研究活動を展開する体制と環境を整える</u>。そうすることで、アジア太平洋地域の諸事情に通じた実務家と、多言語による調査・研究プロジェクトをマネジメントできる地域専門家の育成を担う、真に魅力ある大学院教育プログラムの構築を目的としている。</p>			

機 関 名	早稲田大学	整理番号	a031
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本研究科では、1998年の修士課程発足以来、<u>教員、学生、学外アクターの三者が研究プロジェクトを通じて協働する問題発見・解決型の研究・教育手法として「トライアングル・メソッド」を導入してきた。</u>事実これまでに、インターンシップ制度や海外提携大学との交換留学制度の活用に加えて、プロジェクト研究ごとに教員と学生が一丸となって実施する国外諸機関との共同調査・研究や、外国人学生を主対象とする日本国内でのフィールド調査などを積極的に展開してきた。2000年に設立された博士後期課程学生の多くは、アジア太平洋研究センターの研究助手や、21世紀COEプログラムの研究員やリサーチアシスタントとして、また学内研究プロジェクト各組織の補助員として、調査・研究プロジェクトのマネジメントを実践的に体験し学習している。発足わずか5年目であるが、すでに博士論文を提出して学位を得た者は18名おり、在籍生についても、研究科の紀要以外に、各種学会・研究組織の雑誌に論文を投稿して採用されたり、国内のみならず海外でのコンフェレンスなどでペーパーを発表したりする者が、着実に増加している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>今までの実績と成果を基礎に、修士課程の教育プログラムを、①アジア太平洋地域で活躍するための諸事情に通じた実務家(とりわけアジアビジネス人材、国際情報・マスメディア人材、国際協力・公務人材)の養成に主眼を置く<u>インターンシップ型</u>、②同地域を調査・研究の主対象とし、さまざまなプロジェクトのマネジメント能力を十分に備えた専門家の養成に主眼を置く<u>フィールドリサーチ型</u>に分け、カリキュラムを2つのタイプと3つのクラスター(下述)に再編する。また、「<u>国際協働プロジェクト</u>」科目を新設する。</p> <p>博士後期課程に関しては、<u>ワークショップ型プロジェクト</u>を中心に位置づけ、海外提携大学や国際機関からの協力や支援を得ながら、国際ワークショップ、共同研究、フィールド調査、インターンシップ、交換留学などの多彩なメニューを体系的に展開する。その際、<u>日本からアジア各地に出向くという一方通行的な関係に終わりがちな状況を打破し、日本と特定の対象国とのバイラテラルな関係のみならず、真に「双方向・マルチラテラル」な国際協働プロジェクトに参加して、論文や報告書作成の指導と有機的に連動させる。</u></p> <p>タイプとクラスターの特徴、および教員の配置状況は以下の通り。</p> <p>〔型(タイプ)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * インターンシップ型(修士課程): 現地(日本やアジア各地)での実習や体験を通じて実践的能力を養うとともに、それらを体系化・整理し、今後活かす適応力と構想力を備えた高度職業人を養成する。 * フィールドリサーチ型(修士課程): 学生のリサーチ能力を高め視野を広げることを通じて、研究・調査専門家としての基礎的能力を身につけさせるとともに、それらを文章化し、発信する論理力を養う。 * ワークショップ型(博士後期課程): 高度な分析能力、表現能力を涵養するとともに、国際的・学際的なプロジェクトにコーディネーターとして積極的に関わり、また修士課程学生の指導補佐を通じて、多言語による調査・研究をマネジメントする能力を実践的に養う。 <p>〔クラスター〕(下線はインターンシップ指導委員、下線なしはフィールドリサーチ指導委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 北東アジア・日本クラスター: 天児、篠原、園田、<u>原</u>、<u>ラドケ</u>、ロバーツ * 東南アジアクラスター: 後藤、菊地、白石、村嶋、<u>黒田</u>、<u>林</u> * 複合クラスター: <u>小林</u>、<u>浦田</u>、<u>阿部</u>、<u>川村</u>、<u>山岡</u>、<u>西川</u> 			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	早稲田大学	整理番号	a031
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 633 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1016 1428 1238" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1016 1428 1144">・多言語教育の実践、海外連携型プロジェクトなどを通じ、「魅力ある大学院教育イニシアティブ」にふさわしい斬新かつスケールの大きな、そしてラディカルとも言えるプログラムであり期待が持てる。 <li data-bbox="165 1160 1428 1238">・ただし、カリキュラムがかなり複雑であり、教員組織の有機的な連関性の確保などの面で工夫が必要である。 			